症例2

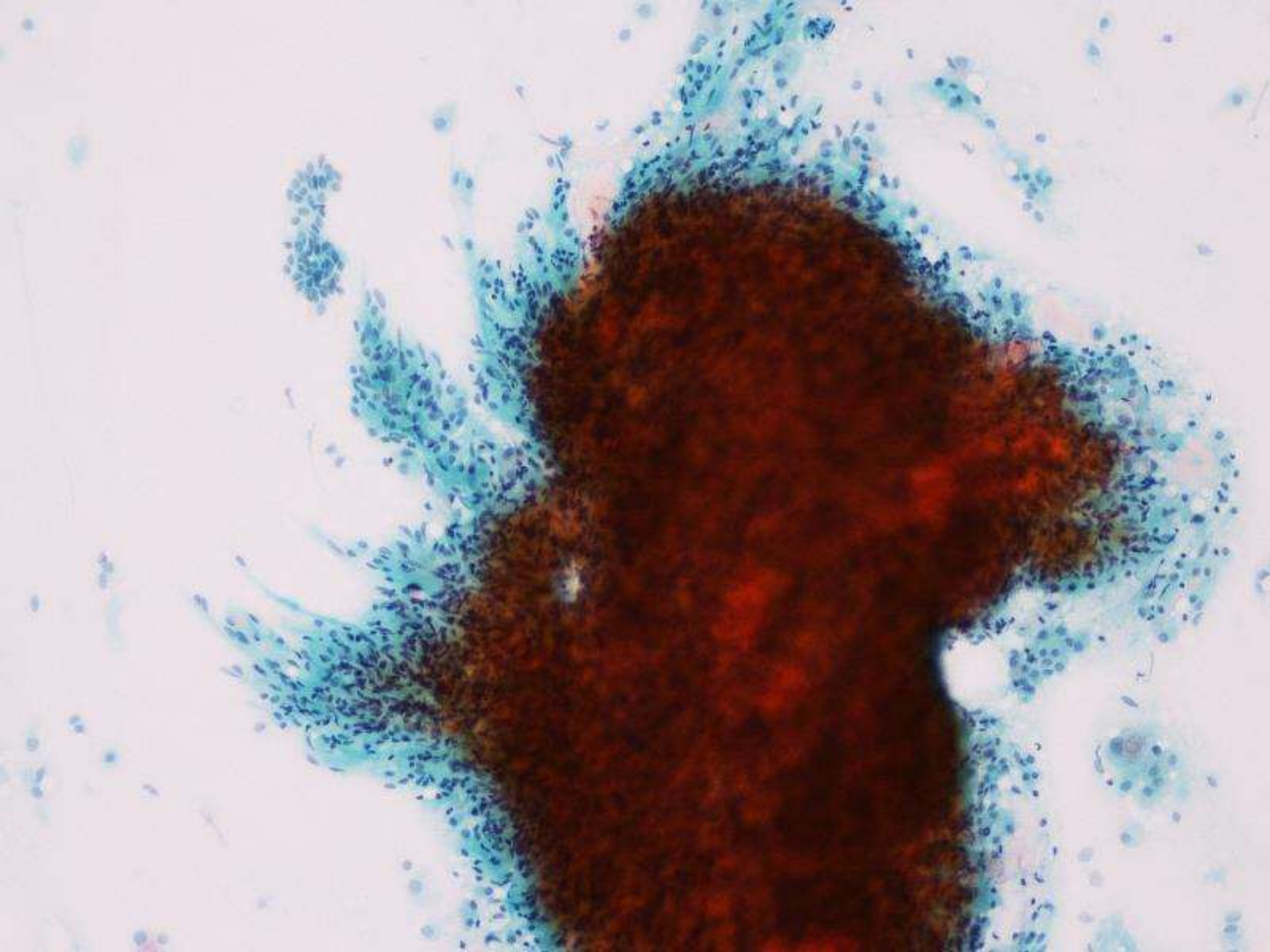
患　者：64歳　女性

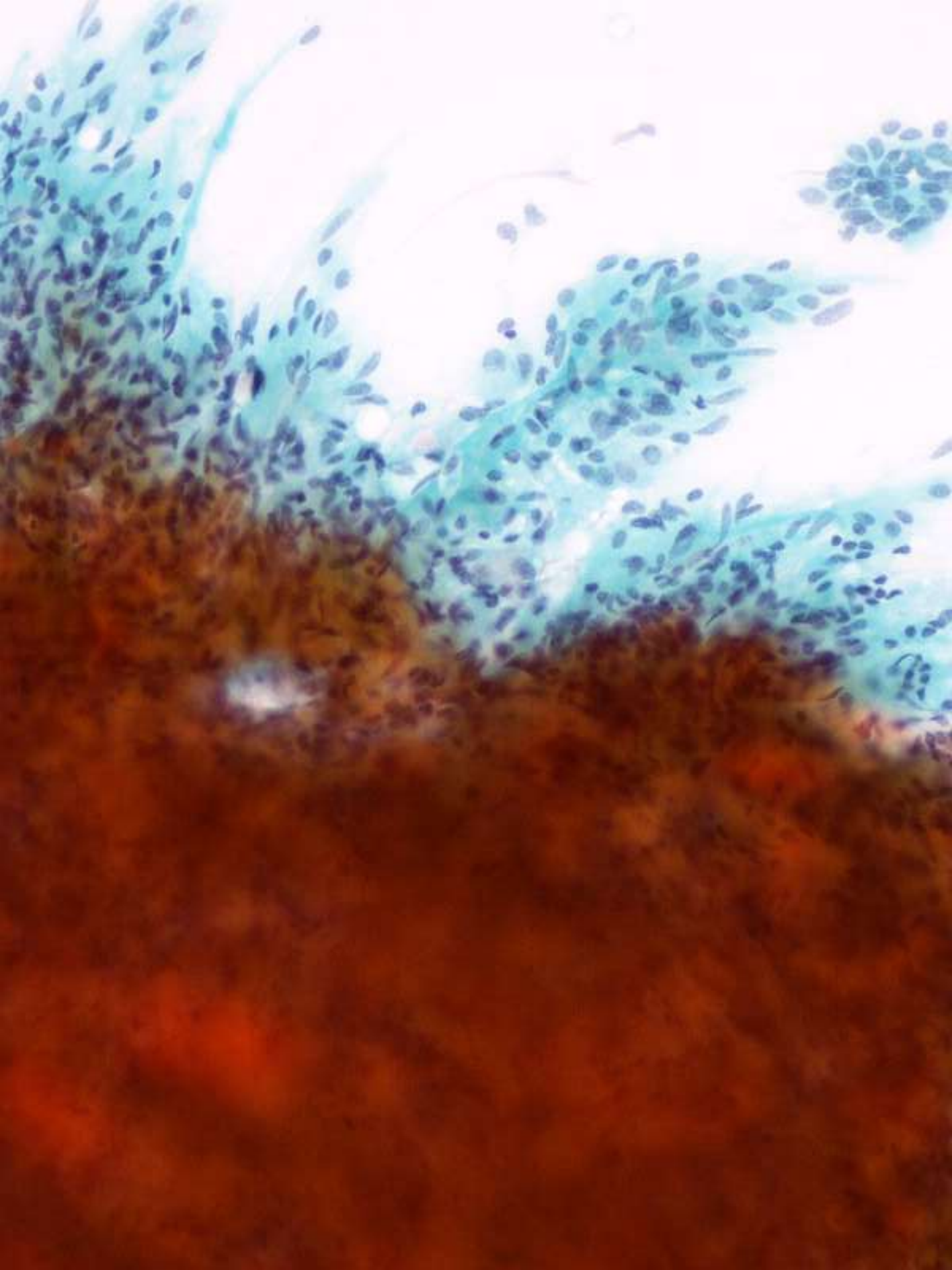
現病歴：2年前自覚した右耳下腺腫瘍。前医での細胞診Class Ⅲの診断で当院受診。右耳下腺内に20mm大のmassを認め耳下腺穿刺が施行された。

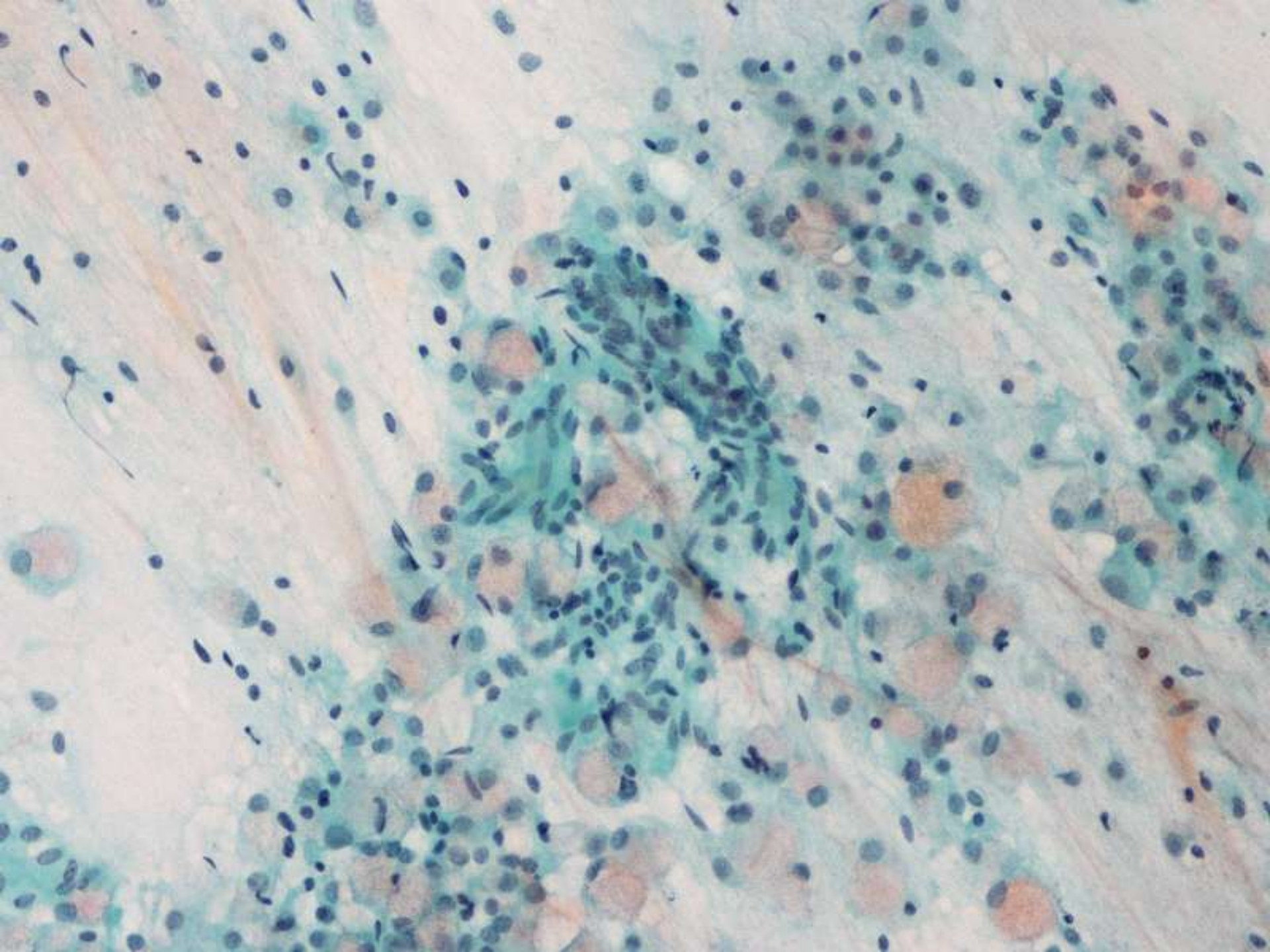
検　体：耳下腺穿刺

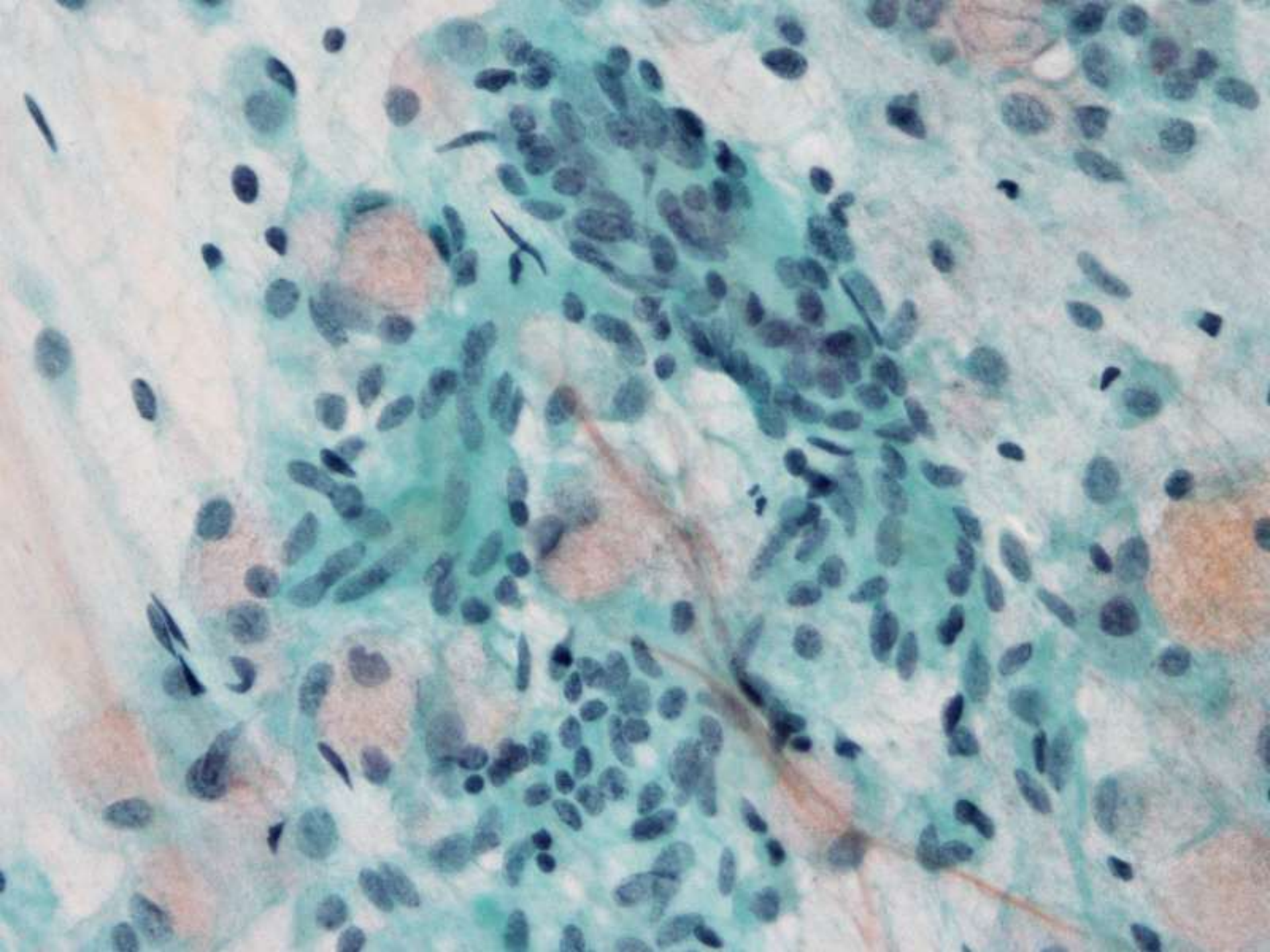
＜解答＞

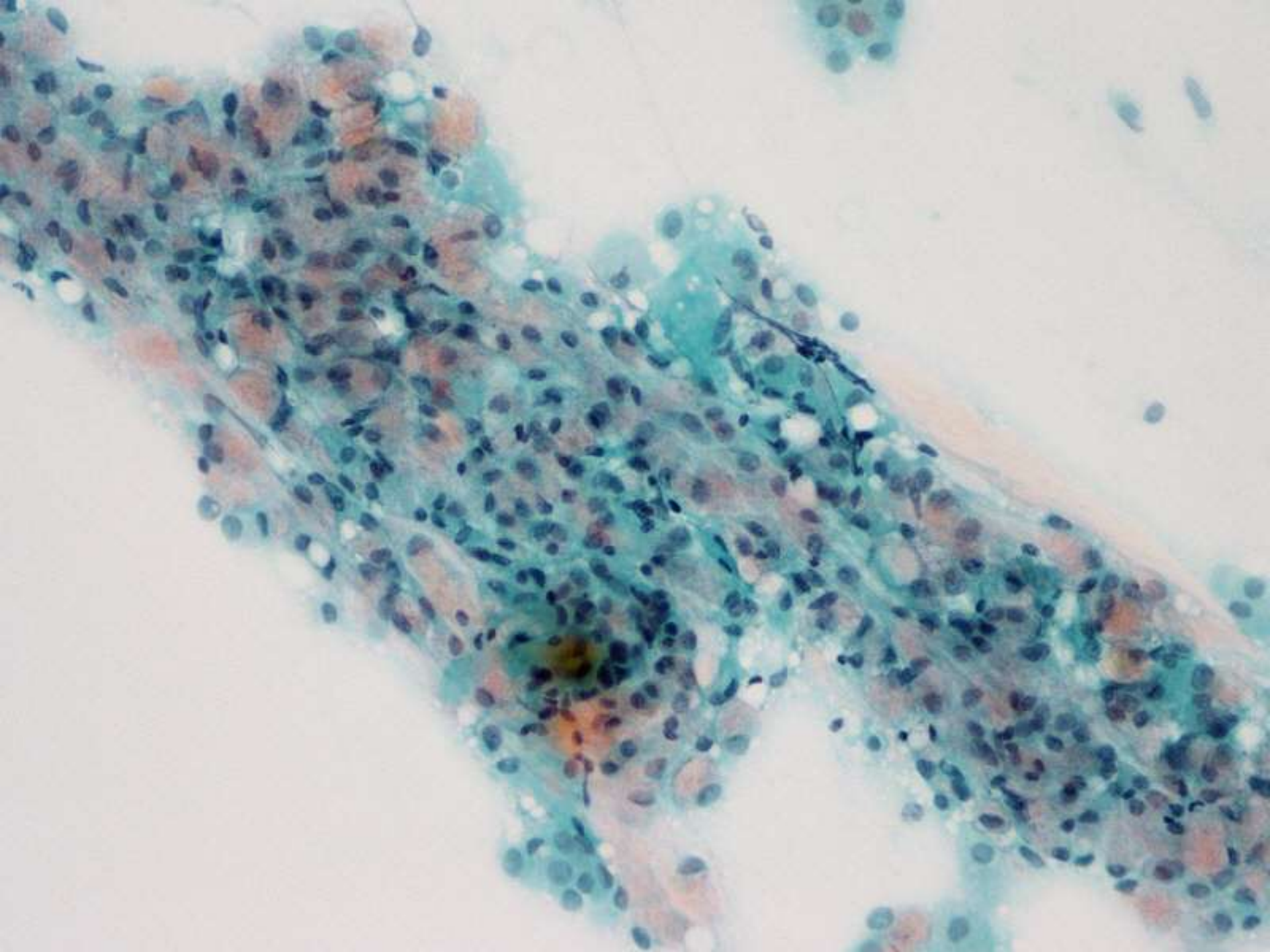
① 多形腺腫
② 筋上皮腫
③ ワルチン腫瘍
④ 基底細胞腺腫
⑤ 腺様嚢胞癌
⑥ 唾液腺導管癌
⑦ 多形腺腫由来癌（粘表皮癌）

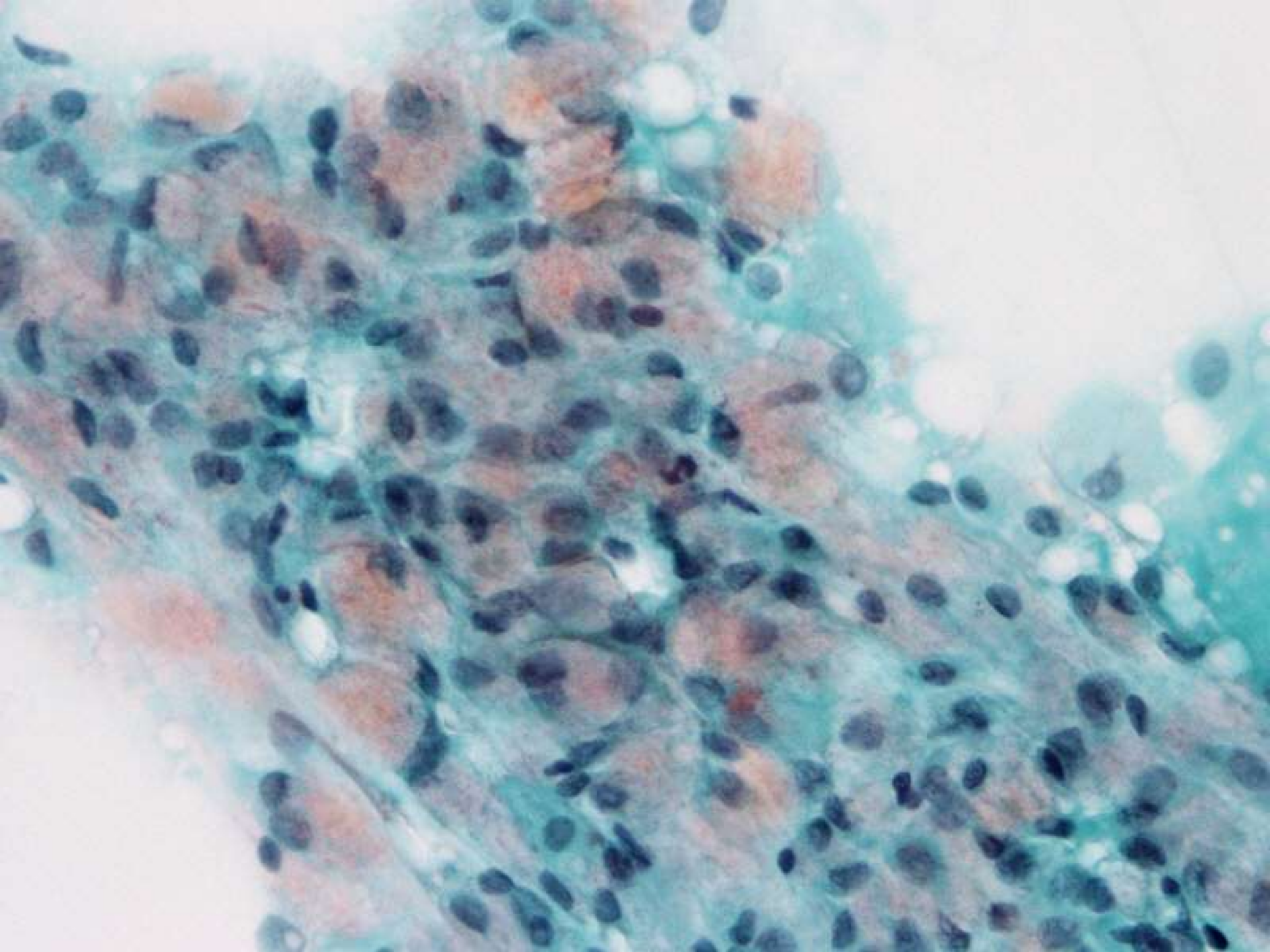


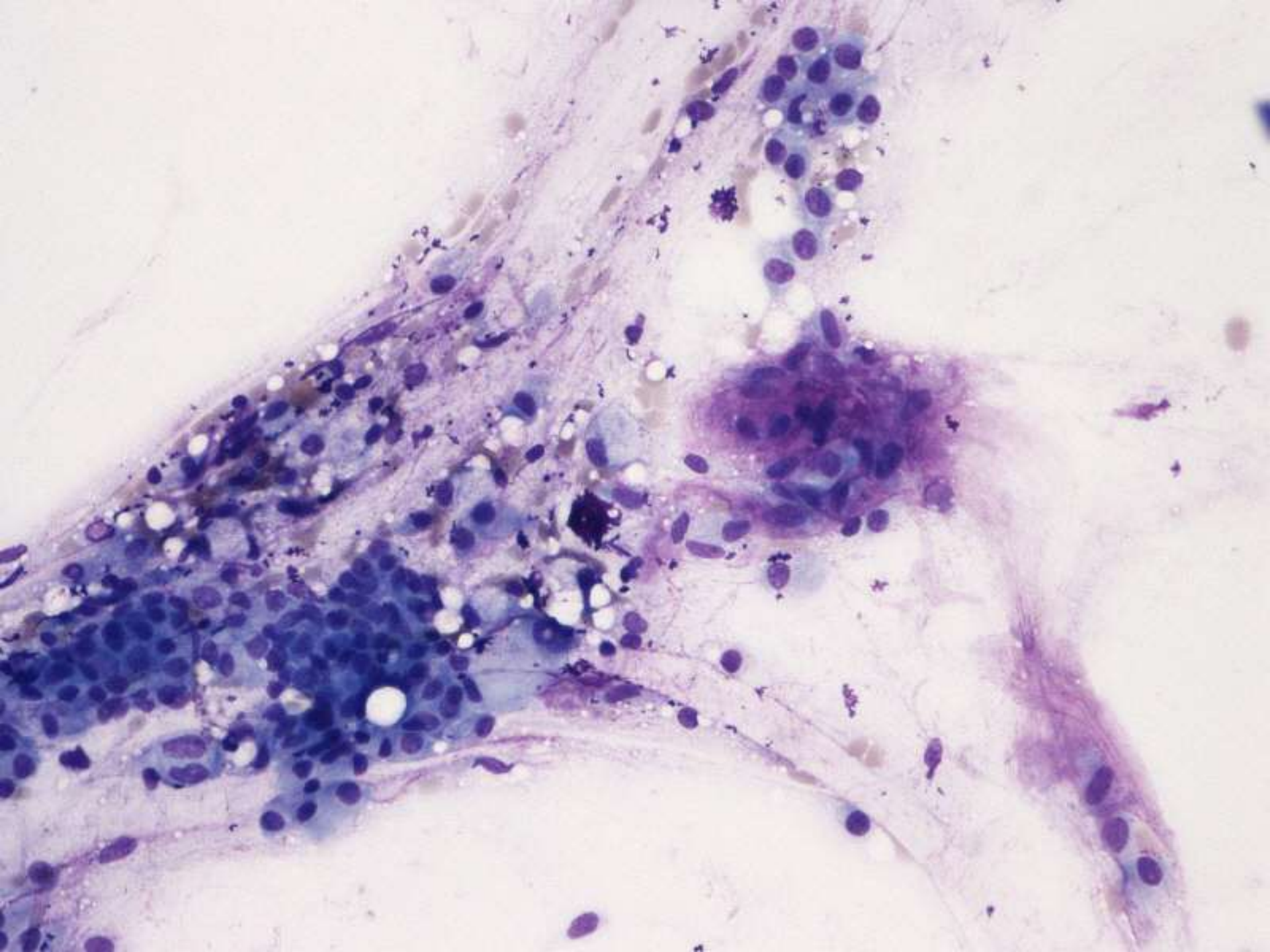


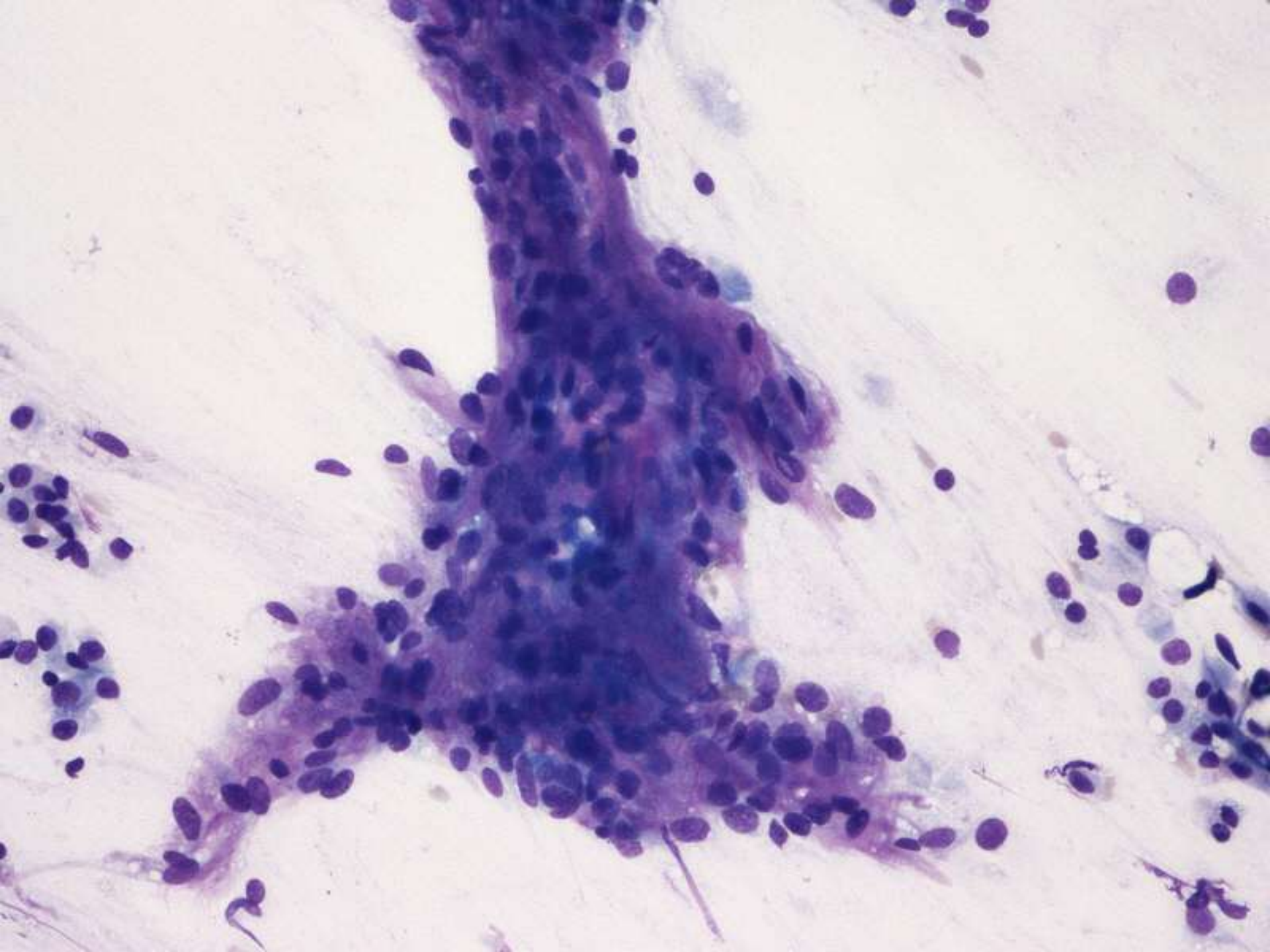


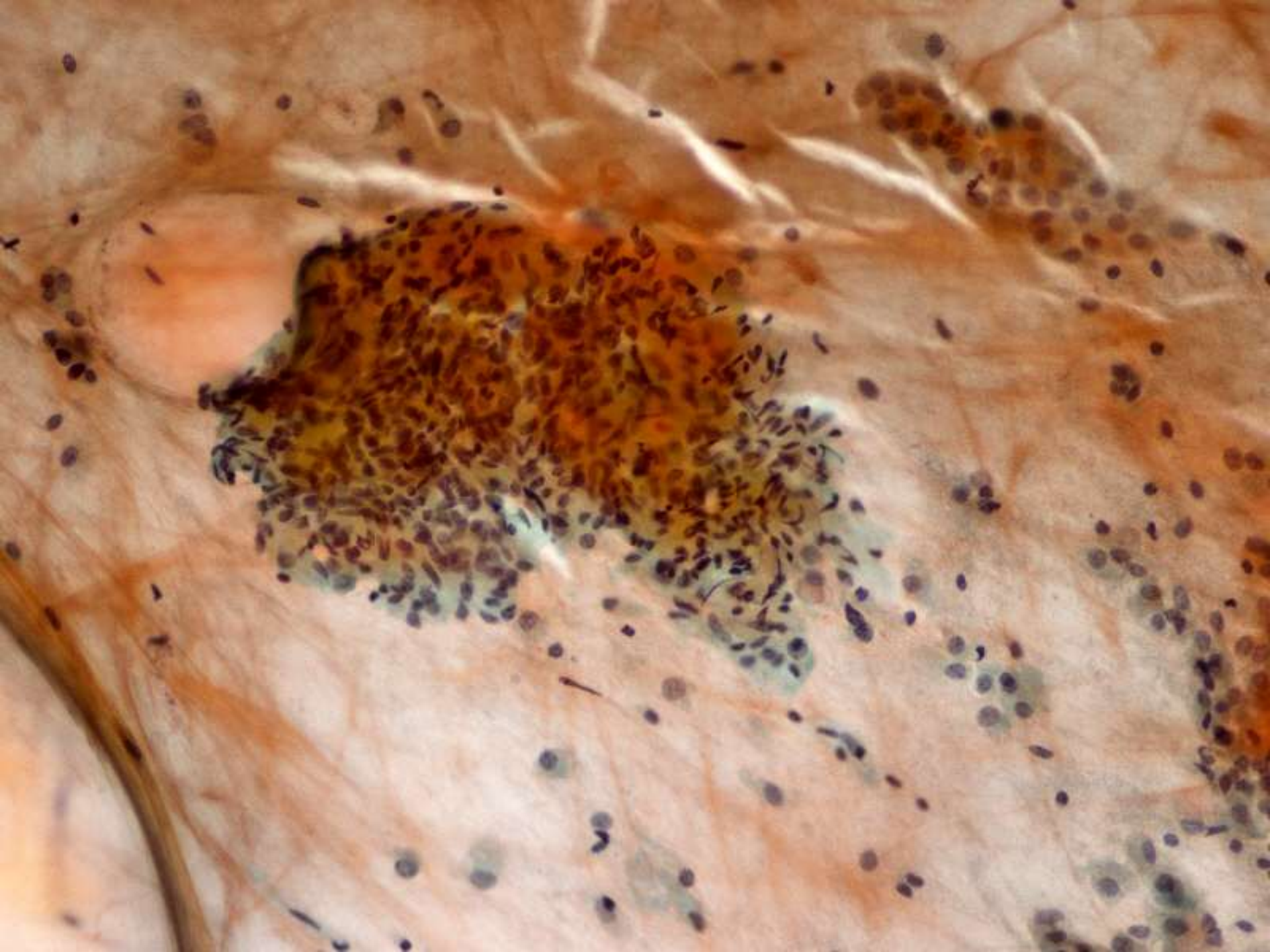


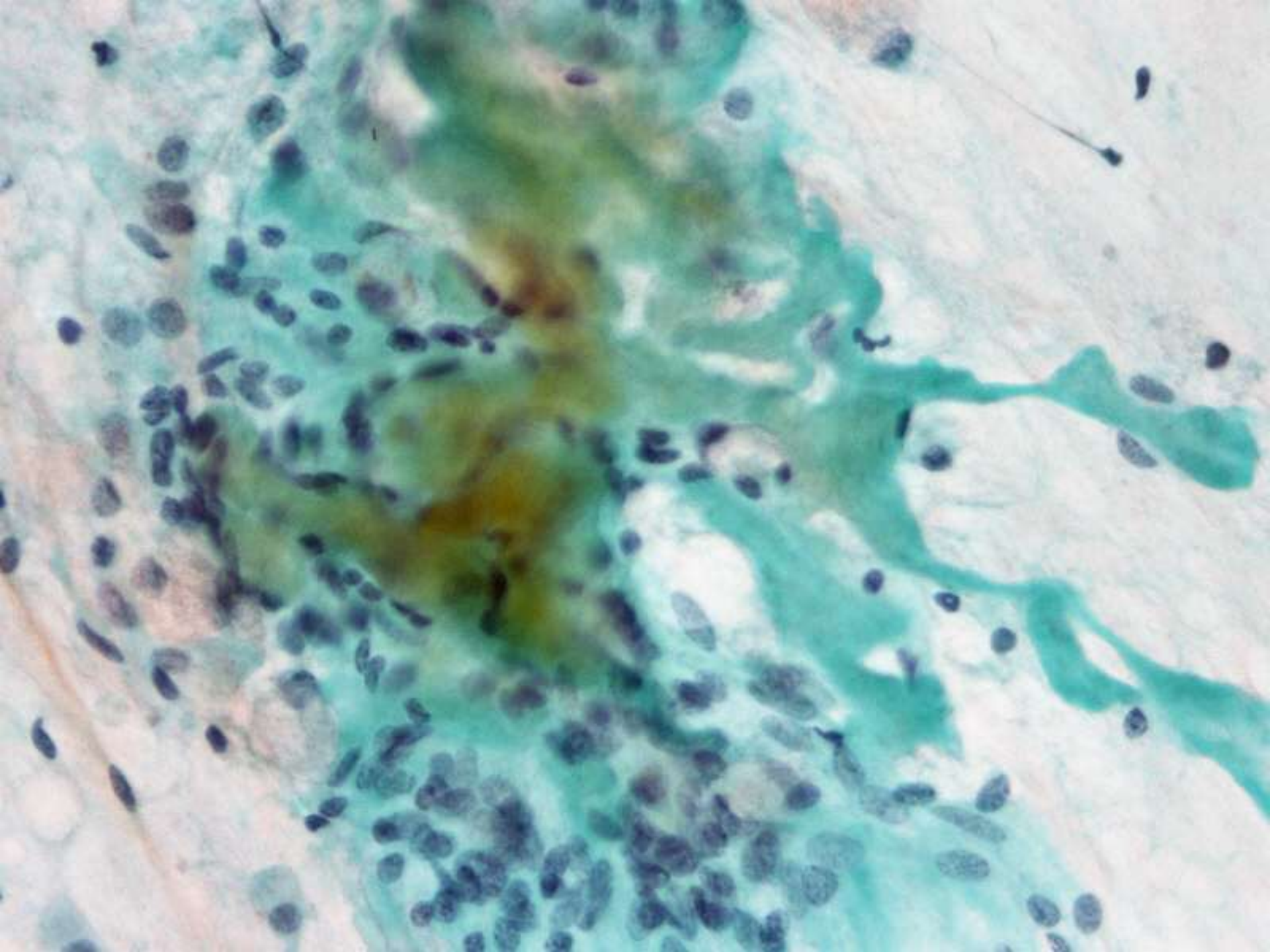








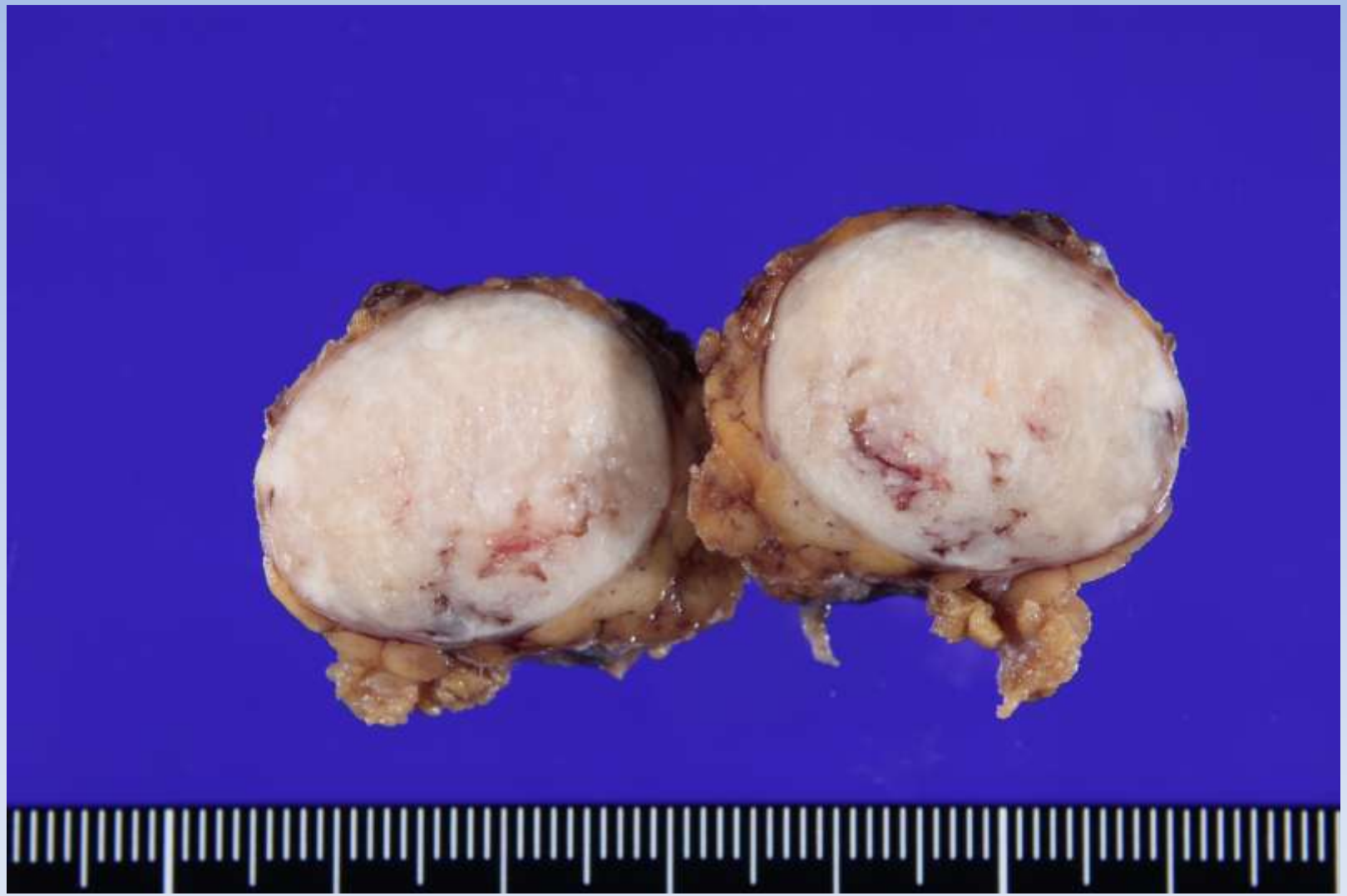


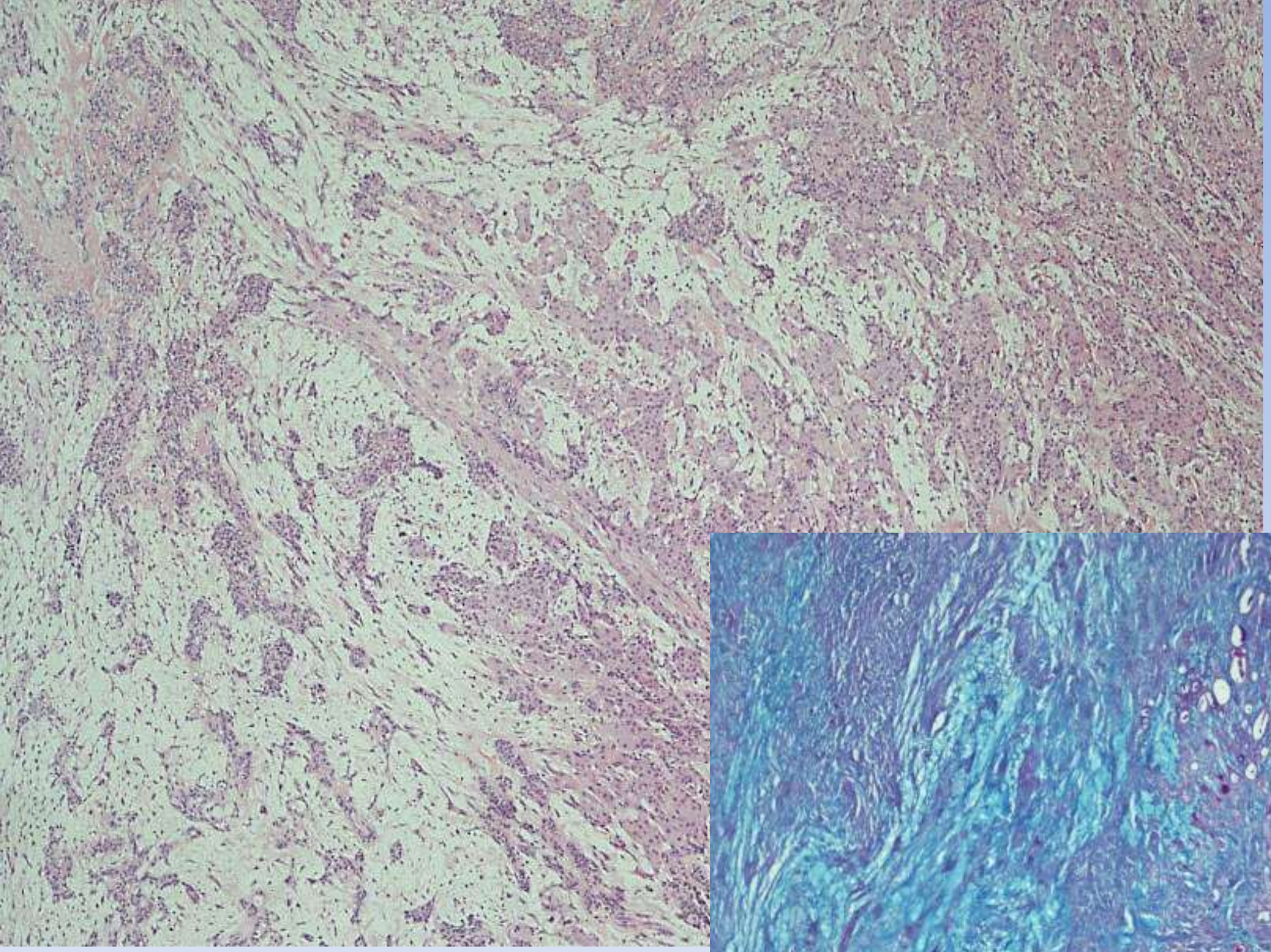


超音波画像

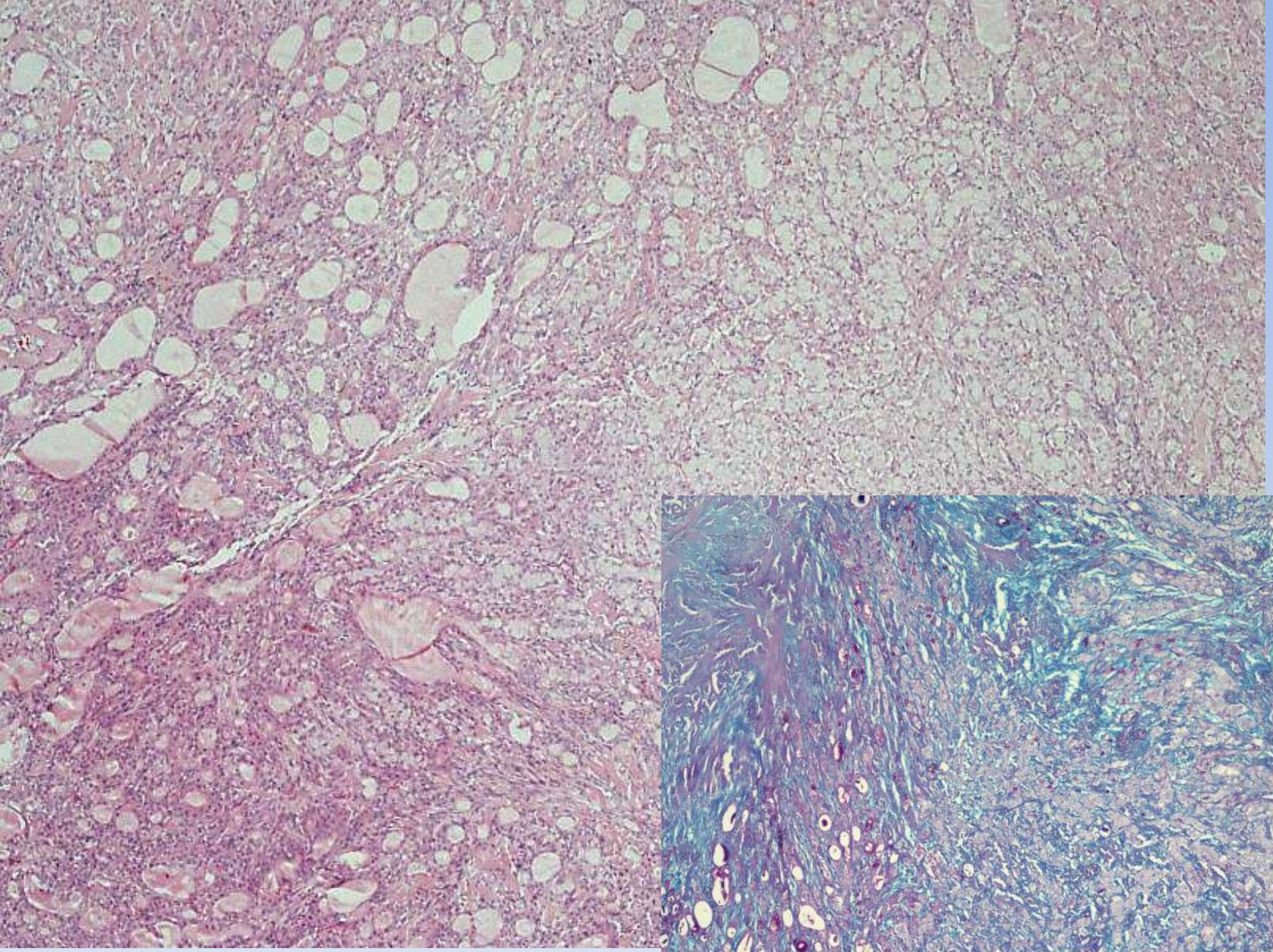

Kumamoto Red Cross HP
03/06/17 10:01:16 AM ADM
MI 0.9 TIs 0.2 M12L
--:--:-- Thyroid
B CHI
Frq 12.0 MHz
Gn 64
E/A 2/3
Map D/0/0
D 4.0 cm
DR 72
FR 58 Hz
AO 100 %
L 24.0 mm
L 17.5 mm
WL:127 WW:255
1.09

ホルマリン固定割面像





AB-PAS



AB-PAS

病理組織診断

多形腺腫 Pleomorphic adenoma

＜所見＞

線維性被膜に被覆された境界明瞭な腫瘤で、組織学的には多形腺腫です。著しい細胞異型および浸潤性増殖は認められない。

多形腺腫　Pleomorphic adenoma

- 多形腺腫は全大唾液腺腫瘍の55%～70%を占める最も頻度の高い良性腫瘍である。
- 30歳代の女性に最も多く見られるが、性別に関係なく子供や高齢者にも発生する。
- 発生頻度は耳下腺84%、小唾液腺10%、顎下腺5%、舌下腺0.1%
- 予後は初発時の治療により異なる。周囲正常組織を含めた腫瘍の完全摘出がなされた場合は非常に予後良好であるが、腫瘍核出術では再発率が高い。
- 多形腺腫の5%から10%に多形腺腫由来癌が発生するとされ、その頻度は手術までの経過が長いほど高いと報告されている。

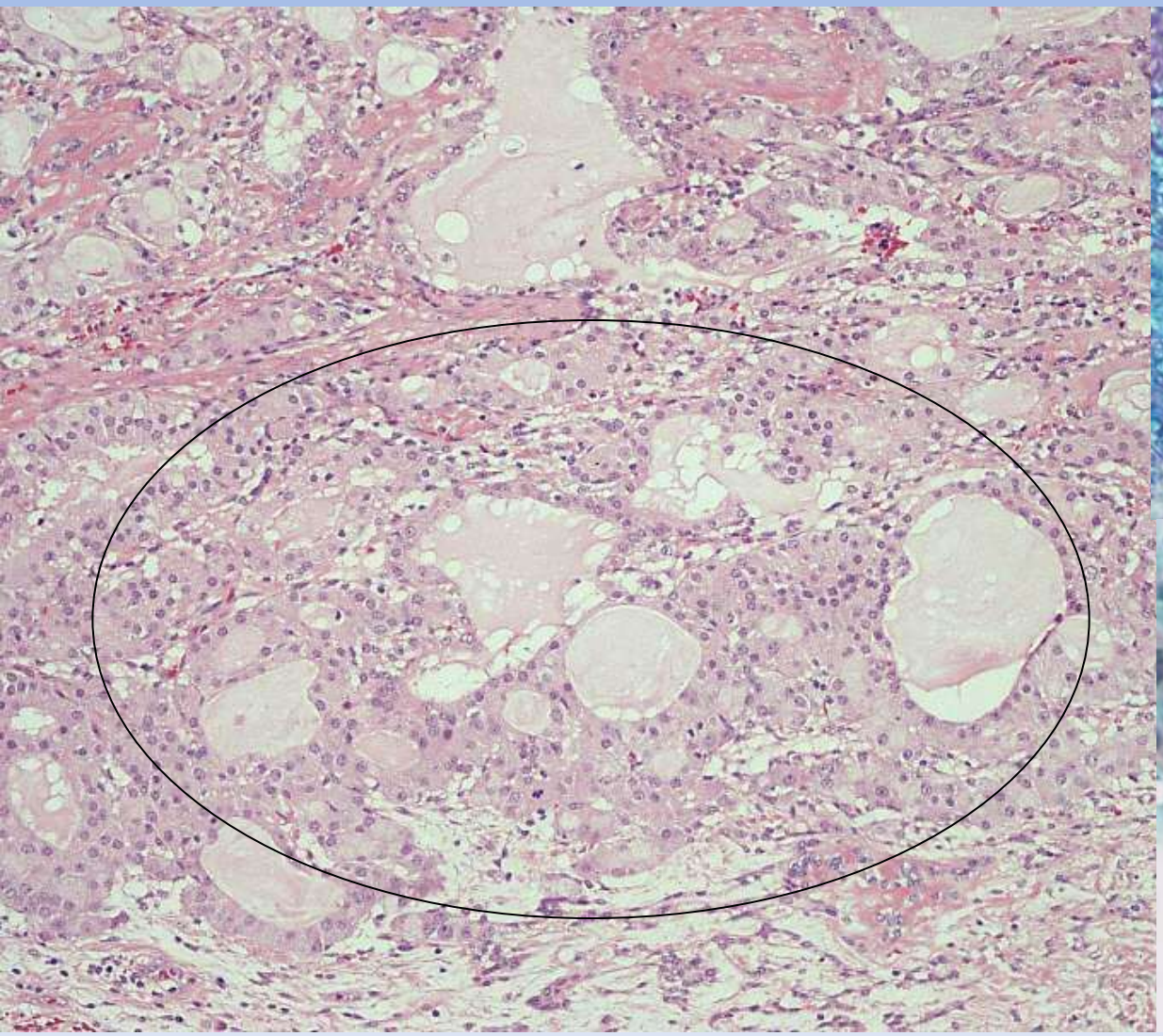
唾液腺腫瘍アトラスより

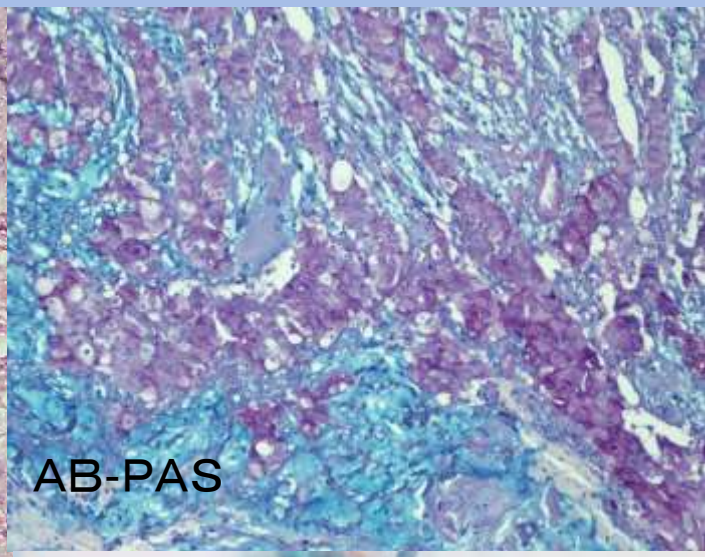
多形腺腫の組織像の多様性

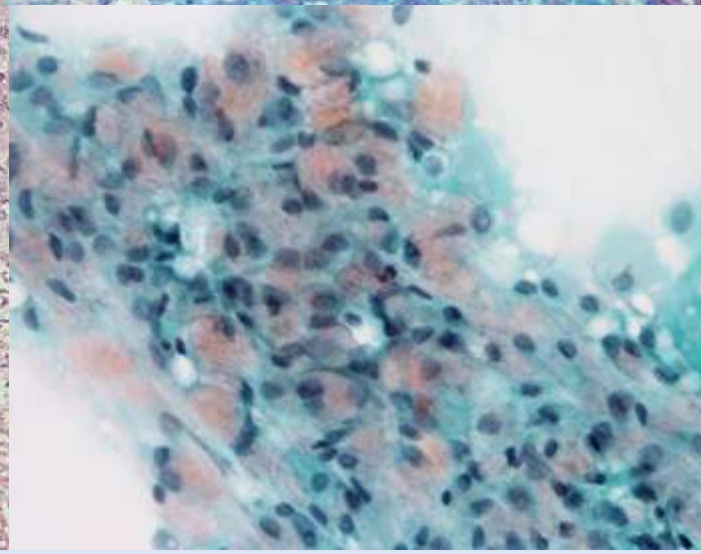
- 典型例では分泌物を入れた腺管と腺管の周囲から間質内へと移行して増生する筋上皮細胞および粘液に富む間質基質あるいは軟骨成分の三成分が混在している。
- 富細胞性多形腺腫にみられる小型筋上皮細胞の蜜な増生。粘液性間質は明らかでない・・・筋上皮腫、基底細胞腺腫との鑑別
- 腺管上皮や筋上皮細胞にみられる扁平上皮化生・・・扁平上皮癌との鑑別
- 腺管上皮の好酸性細胞化生・・・オンコサイトーマとの鑑別
- 腺管上皮の粘液細胞化生・・・低悪性粘表皮癌との鑑別
- 腺様嚢胞癌類似の篩状構造・・・腺様嚢胞癌との鑑別
- 偽腺腔構造（粘液性間質を取り囲むように筋上皮細胞が増生）

唾液腺腫瘍アトラスより

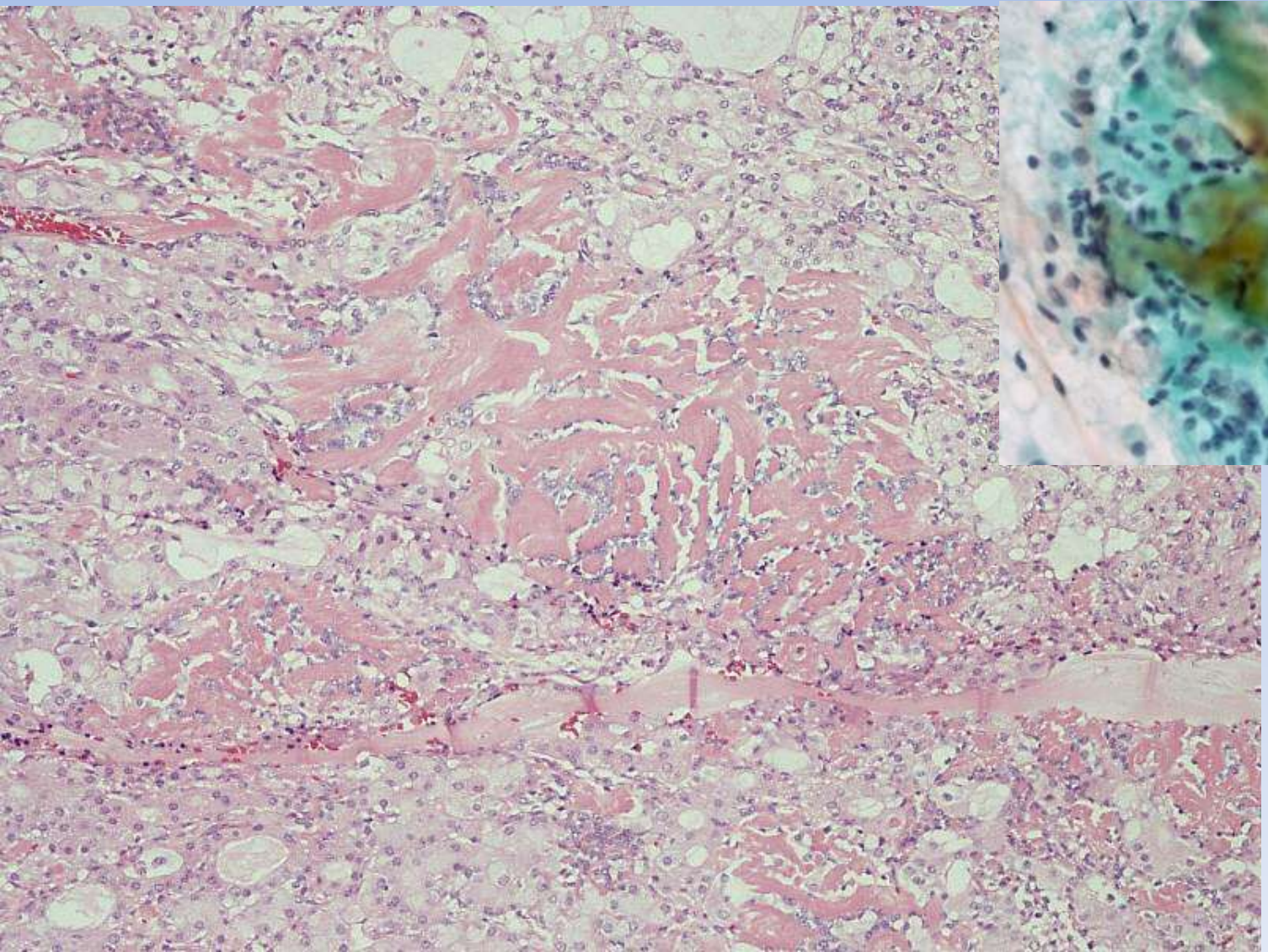
粘液化生

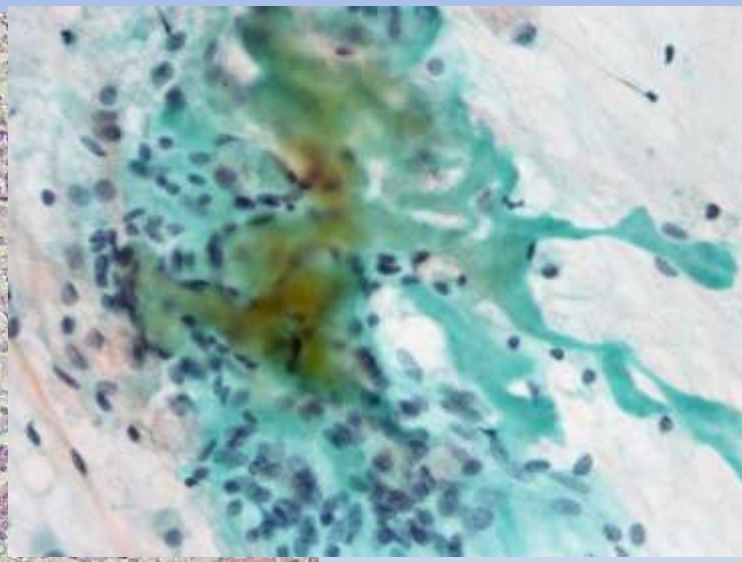




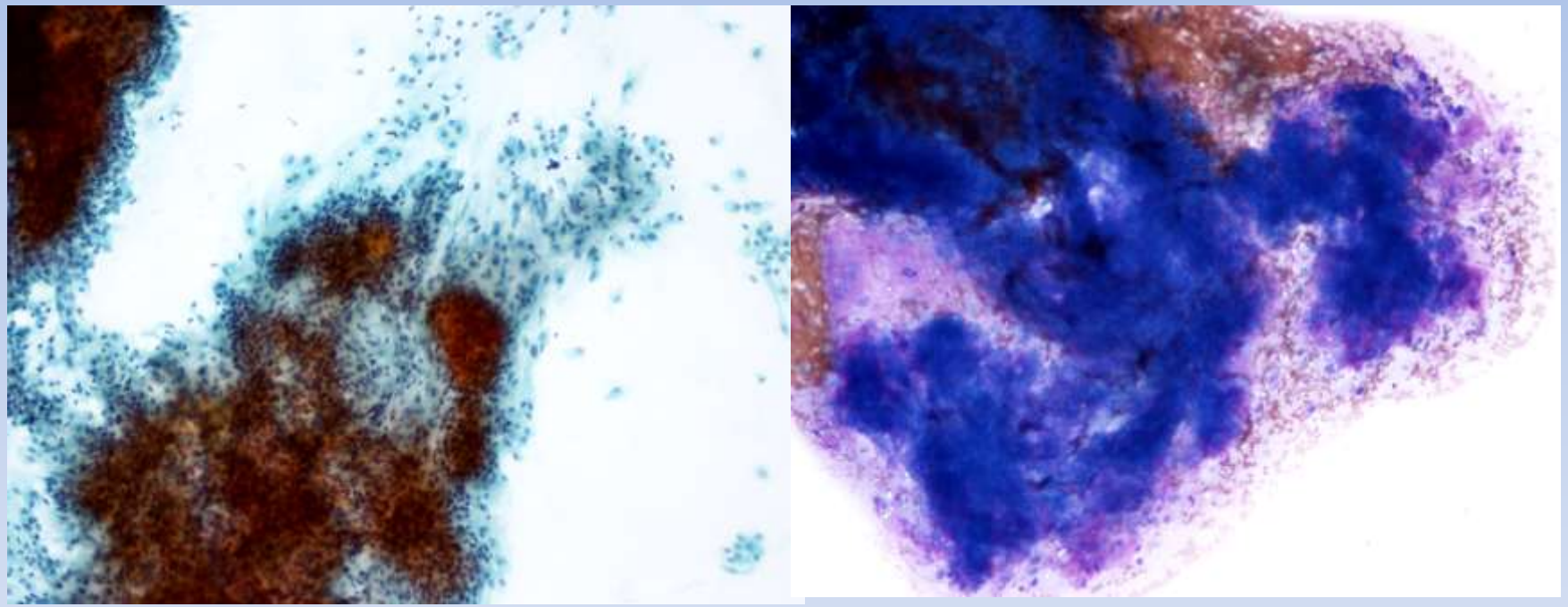


硝子様基底膜成分

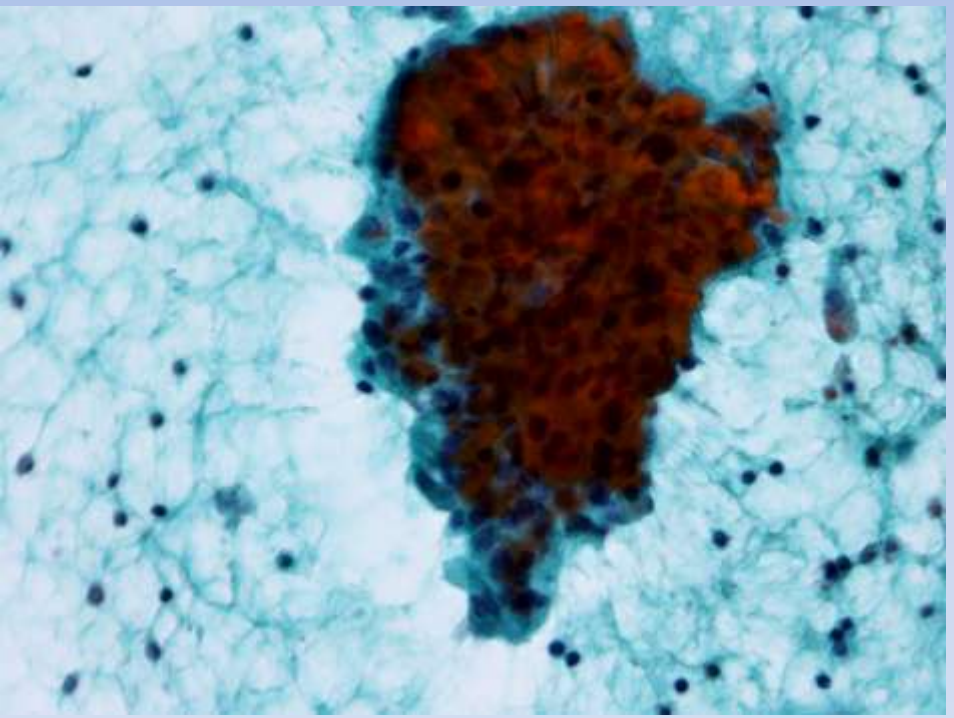


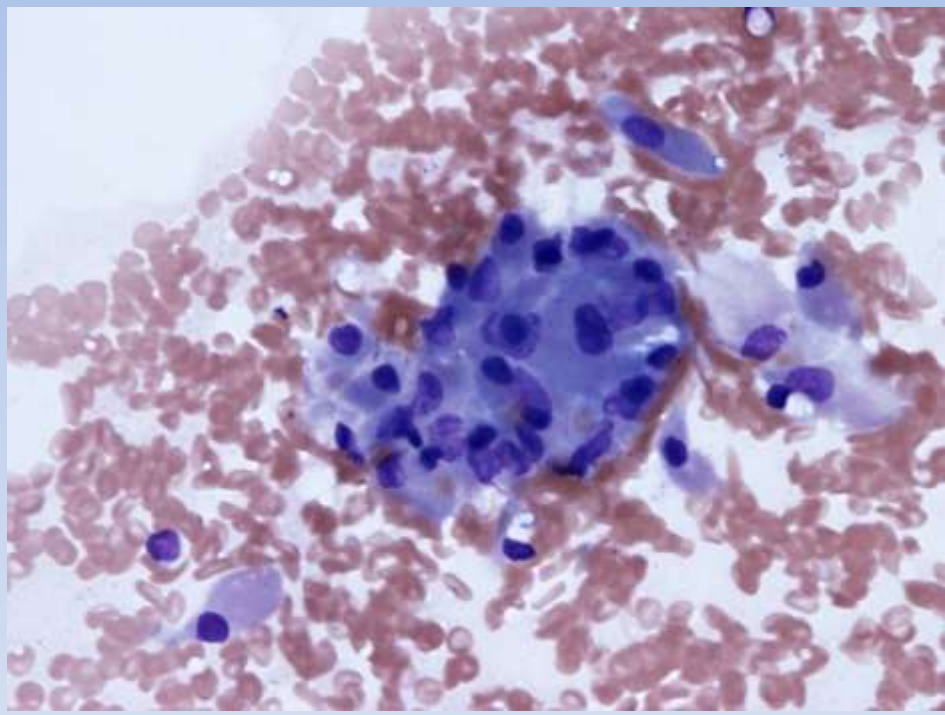


多形腺腫(典型例)

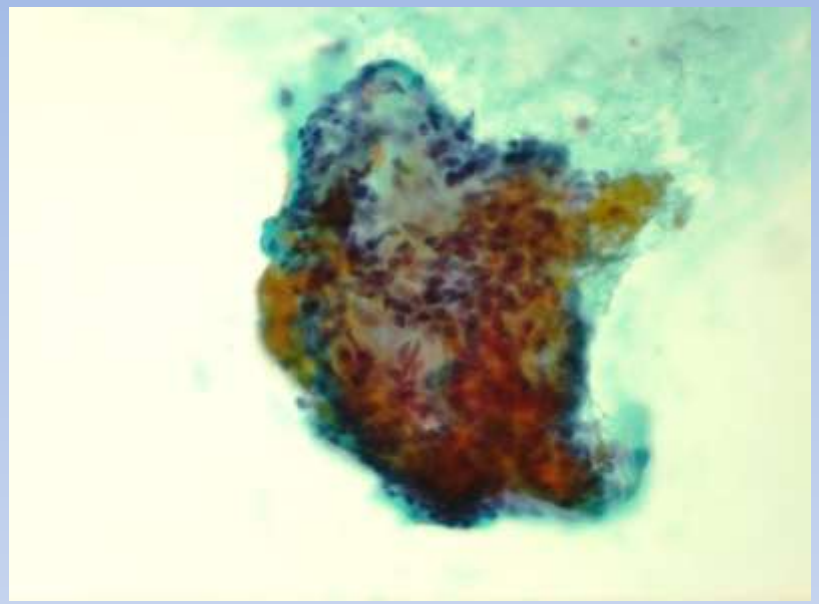


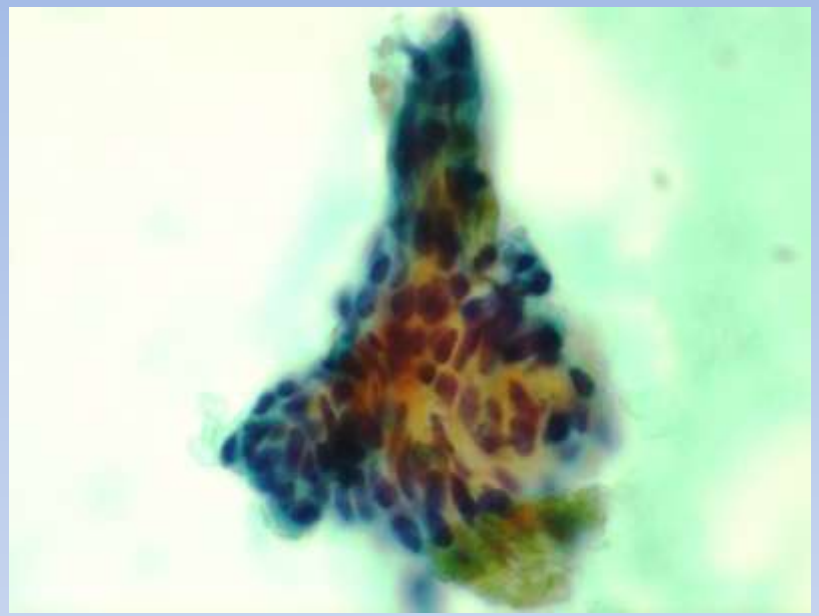
ワルチン腫瘍

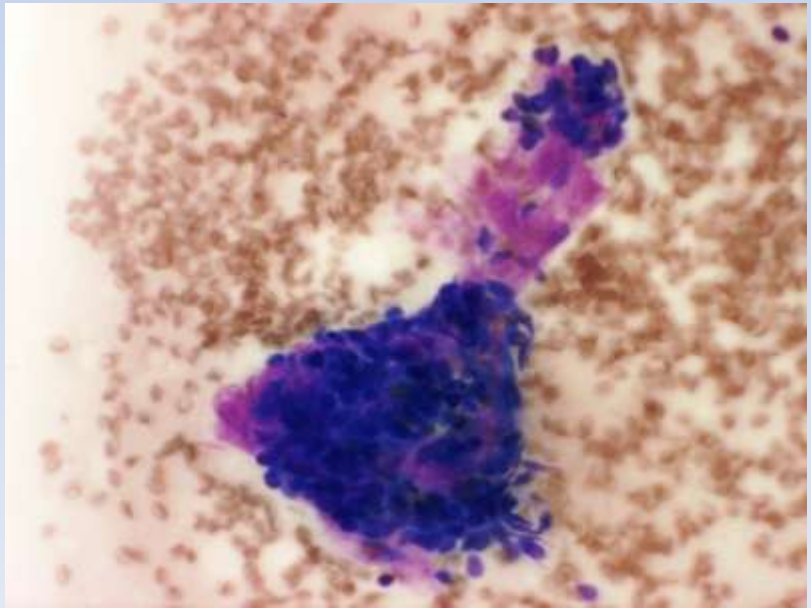


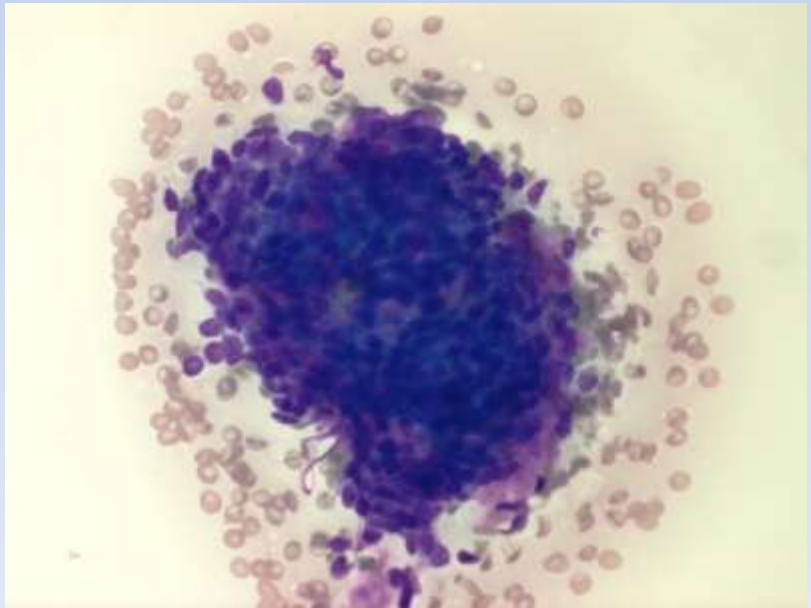


基底細胞腺腫

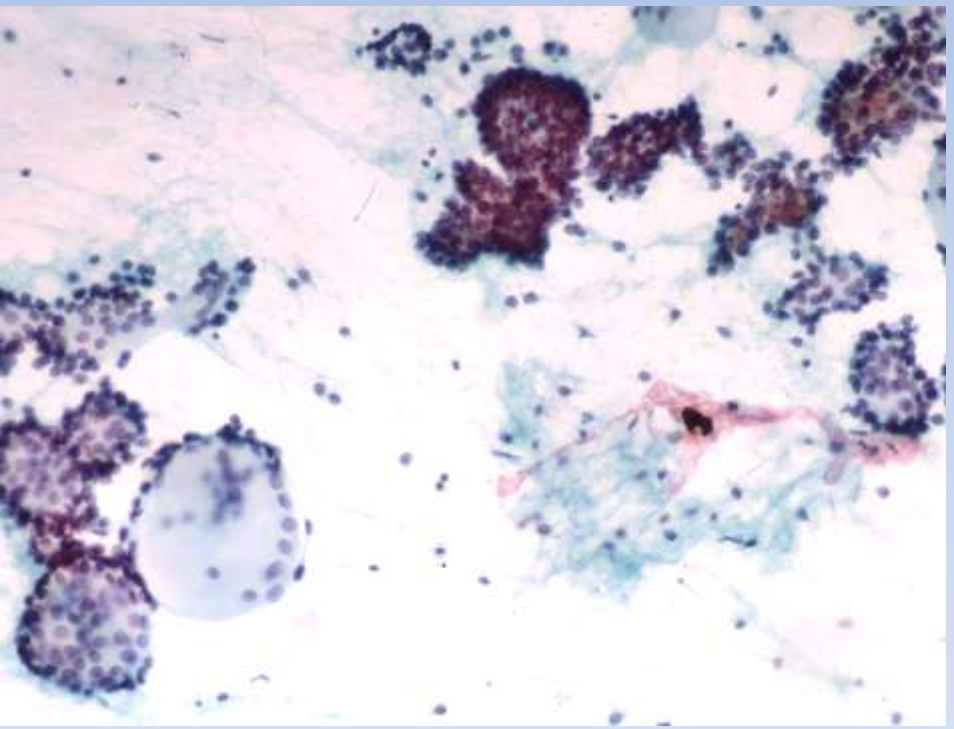


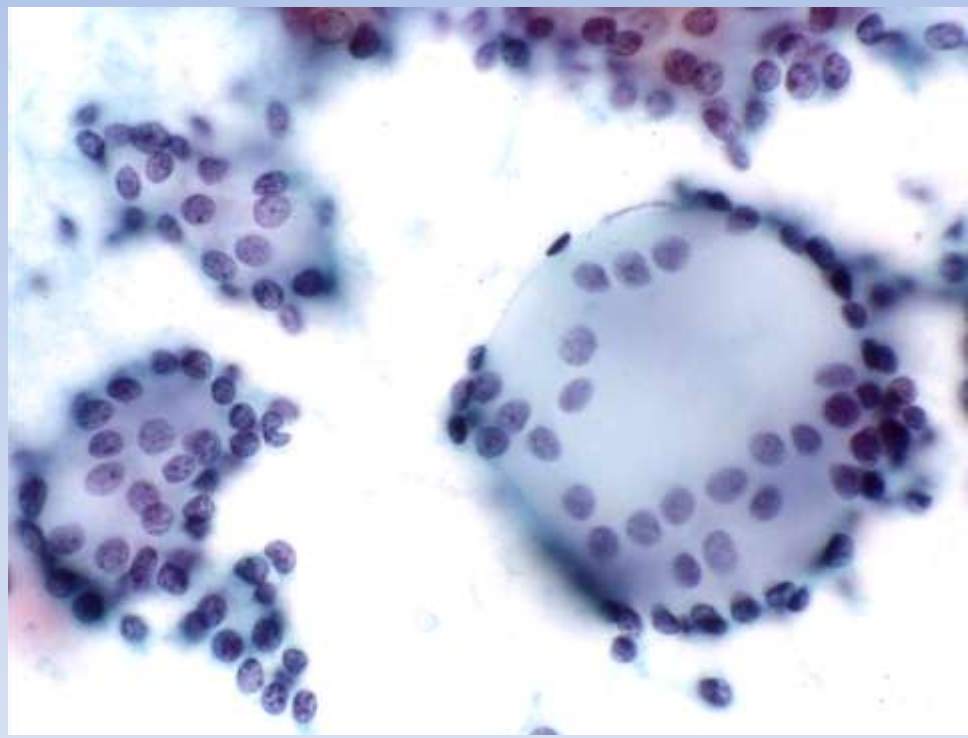




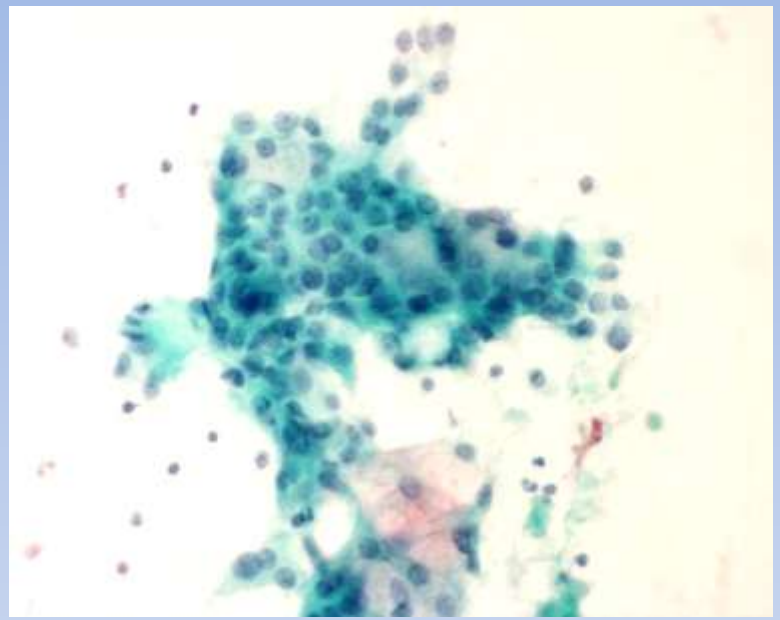


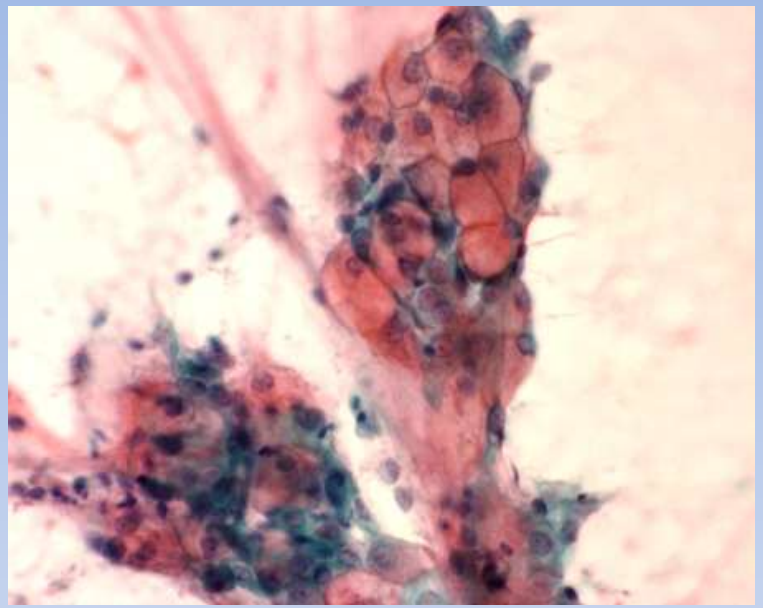
腺様嚢胞癌

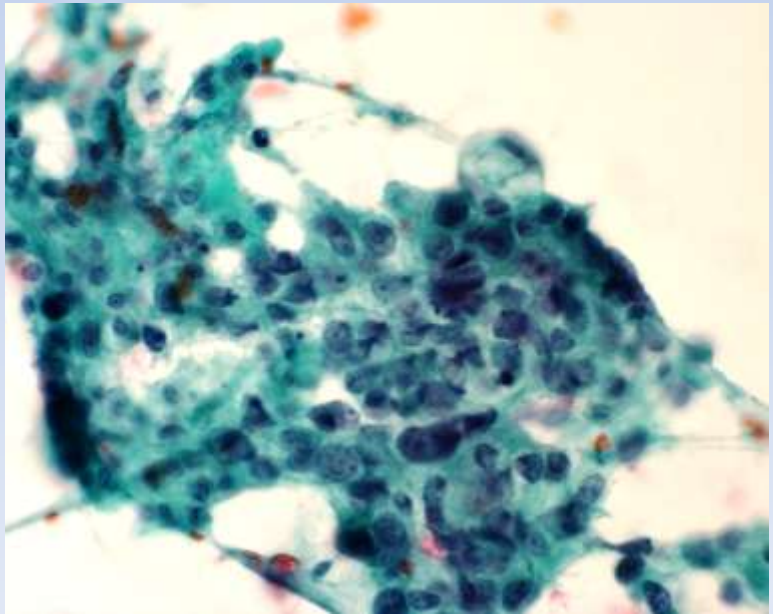


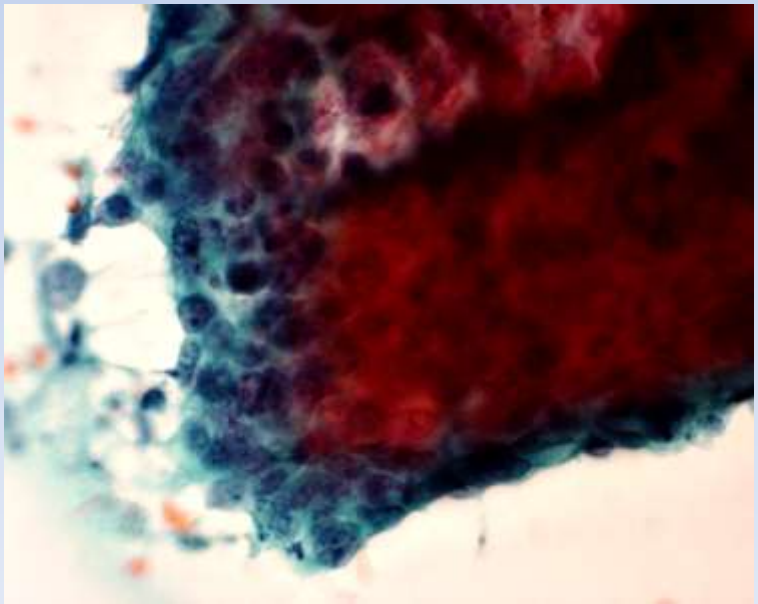


粘表皮癌

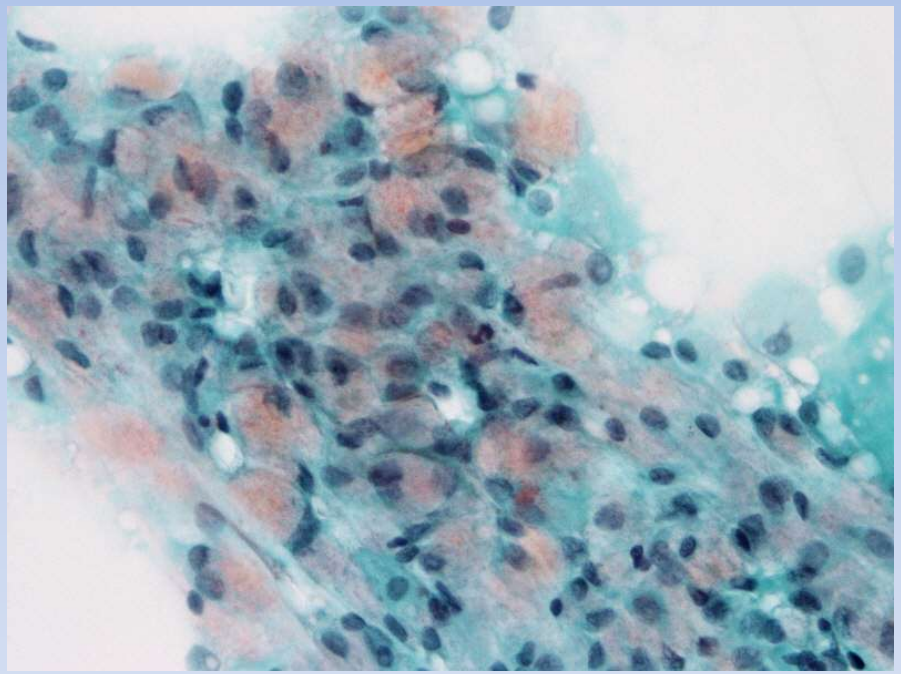




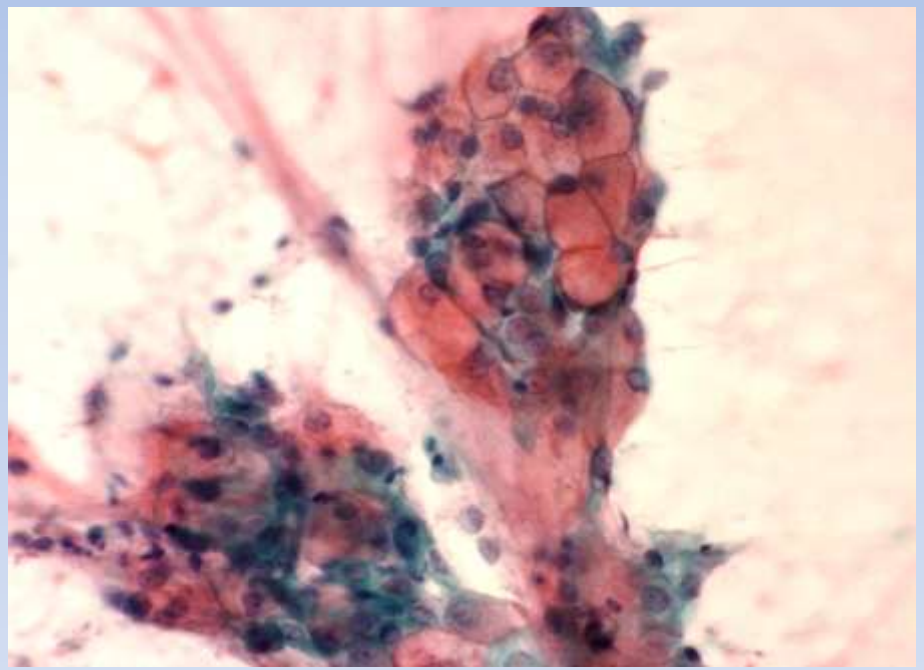




症例



粘表皮癌



多形腺腫由来癌　Carcinoma ex pleomorphic adenoma

- 既存の多形腺腫内に発生した癌腫で、癌腫と多形腺腫が混在するか、以前に多形腺腫を切除した部位に癌腫が再発した症例をいう。
- 多形腺腫の存在期間に比例して高くなり５年以内で1.6%、１５年以上では9.4%と報告されている。
- 多形腺腫由来癌は、全唾液腺悪性腫瘍の11.6%（2.8～42.4%）、多形腺腫の6.2%（1.9～23.3%）を占める。
- 癌腫の成分としては、腺癌NOS（特に低分化腺癌）、唾液腺導管癌、未分化癌の頻度が高いが、粘表皮癌、腺様嚢胞癌、筋上皮癌、扁平上皮癌などあらゆる組織型に遭遇する可能性がある。

唾液腺腫瘍アトラスより

低悪性度（高分化型）粘表皮癌
Low grade mucoepidermoid carcinoma

- 組織構造は、嚢胞形成型を特徴とする。
- 粘液産生細胞が主体となり、多量の粘液産生が認められる。嚢胞壁は数層の粘液産生細胞で形成され、それに接して分化の良い扁平上皮や中間細胞の充実性増殖を認める。
- 腫瘍細胞の異型性、多形性、核分裂像は非常に少ない。

唾液腺腫瘍アトラスより